

研究員 の眼

外国株式ファンドから過去最大の資金流出 ～2019年4月の投信動向～

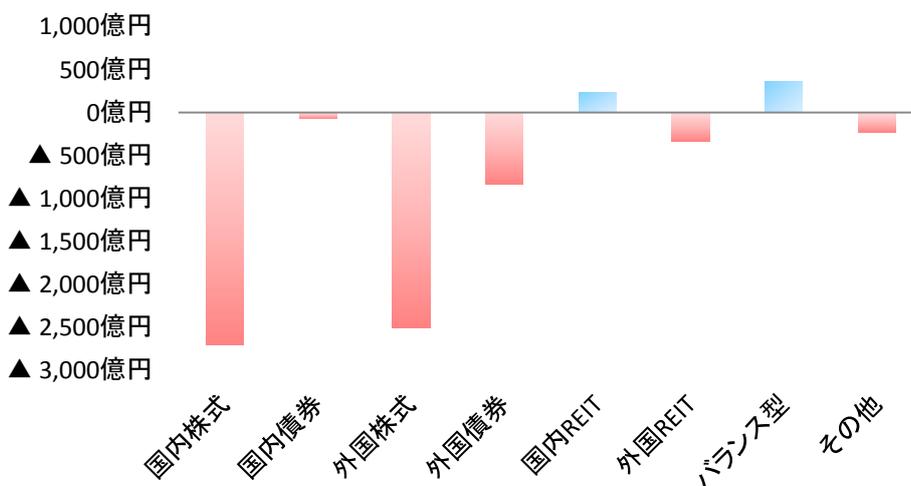
金融研究部 准主任研究員 前山 裕亮
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

内外株式を中心に資金流出

2019年4月の日本籍追加型株式投信（ETFを除く。以降、ファンドと表記）の推計資金流入をみると、国内株式から2,700億円、外国株式から2,500億円と大規模な流出があった【図表1】。また、外国債券と外国REITからもそれぞれ800億円、300億円を超える資金流出があった。バランス型と国内REITには資金流入があったが、3月と比べて流入金額はやや鈍化した。

ファンド全体だと、4月は資金流出が6,000億円を超えた。2月から外国株式や外国債券を中心に資金流出が続いていたが、2月の2,700億円、3月の700億円と比べて4月は資金流出が大きくなった。外国株式からの資金流出が加速したことに加えて、株価が堅調に推移したため利益確定の売却が膨らみ国内株式も大規模な資金流出に転じたためである。ちなみに、流出金額が6,000億円を超えたのは2016年12月以来のことである。

【図表1】2019年4月の日本籍追加型株式投信(除くETF)の推計資金流入



(資料) Morningstar Direct より作成。各資産クラスはイボットソン分類を用いてファンドを分類。

過去最大の外国株式からの資金流出

外国株式では、4月は2,500億円の資金流出と集計できる1997年4月以降で最大の流出となった。これまで最大の資金流出はリーマン・ショック当月の2008年9月であり、2400億円であった。ただ、外国株式の純資産総額は2008年9月初時点で10兆円程度であったのに対して、2019年4月初時点では18兆円と倍近く膨らんでいる。そのためリーマン・ショック時と単純に金額を比較すること自体には意味がないかも知れないが、それを差し置いても4月は外国株式の流出が特に大きかったといえるだろう。

外国株式の中には売れているファンドもあった。実際に4月に「ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド（毎月分配型）」や「グローバル全生物ゲノム株式ファンド（1年決算型）」は300億円前後の資金流入があった【図表2：赤字】。その他にも資金が4つのコース（為替ヘッジの有無×分配金の有無）に分散されているため上位には出てこなかったが、「野村ACI先進医療インパクト投資」は4ファンド合計で270億円の資金を集めた。

ただ、一方で4月は資金流出が50億円以上あったファンドが19本もあり、200億円以上の流出に限っても5本あるなど、大規模な資金流出があった外国株式ファンドが多かった。特に、50億円以上資金流出があったファンドの13本、200億円以上でも4本がテクノロジー系のテーマ型ファンドであり、特に資金流出が顕著であった。

資金流出が大きかったテーマ型ファンドは2018年前半以前に人気を集めたものであり、以前から資金流出が続いていたが、4月に流出が加速したファンドが多かった。やはり足元のパフォーマンスが影響していると思われる。

【図表2】2019年4月の推計純流入ランキング

ファンド名	運用会社	4月の推計純流入	純資産 4月末時点
1位 ピクテ・グローバル・インカム株式ファンド(毎月分配型)	ピクテ投信投資顧問	315億円	6,593億円
2位 グローバル全生物ゲノム株式ファンド(1年決算型)	日興アセットマネジメント	293億円	312億円
3位 中国人民元ソブリンオープン	岡三アセットマネジメント	276億円	772億円
4位 国際アジア・リート・ファンド(通貨選択型)インド・ルピーコース(毎月)	三菱UFJ国際投信	198億円	5,550億円
5位 東京海上・円資産バランスファンド(毎月決算型)	東京海上アセットマネジメント	154億円	760億円
6位 先進国ハイテクオリティ成長株式ファンド(為替ヘッジなし)	アセットマネジメントOne	122億円	124億円
7位 J-REIT・リサーチ・オープン(毎月分配型)	三井住友トラスト・アセットマネジメント	120億円	1,544億円
8位 ダイワJ-REITオープン(毎月分配型)	大和証券投資信託委託	109億円	2,214億円
9位 ニッセイ世界リートオープン(毎月決算型)	ニッセイアセットマネジメント	97億円	848億円
10位 デンマーク・カバード債券・インカムファンド2019-03(為替ヘッジあり)	スカイオーシャン・アセットマネジメント	94億円	3,217億円

(資料) Morningstar Direct より作成。ETF、SMA 専用、DC 専用ファンドは除く。

【図表3】2019年4月の高パフォーマンス・ランキング

ファンド名	運用会社	4月の収益率	過去1年 収益率	純資産 4月末時点
1位 野村世界業種別投資シリーズ(世界半導体株投資)	野村アセットマネジメント	11.8%	11.6%	75億円
2位 グローバルEV関連株ファンド(為替ヘッジなし)	三井住友DSアセットマネジメント	10.2%	-3.9%	1254億円
3位 iTrustロボ	ピクテ投信投資顧問	9.8%	16.8%	47億円
4位 グローバルEV関連株ファンド(為替ヘッジあり)	三井住友DSアセットマネジメント	9.6%	-5.4%	154億円
5位 野村通貨選択日本株投信(メキシコベソコース)毎月分配型	野村アセットマネジメント	9.6%	9.4%	29億円
6位 野村通貨選択日本株投信(メキシコベソコース)年2回決算型	野村アセットマネジメント	9.6%	9.4%	17億円
7位 WTI原油先物ファンド(ロング・ポジション)	アストマックス投信投資顧問	9.5%	-6.0%	45億円
8位 野村アフリカ株投資	野村アセットマネジメント	9.5%	-9.4%	43億円
9位 UBS次世代テクノロジー・ファンド	UBSアセット・マネジメント	9.4%	14.5%	153億円
10位 UBS中国A株ファンド(年1回決算型)	UBSアセット・マネジメント	9.2%	8.1%	96億円

(資料) Morningstar Direct を用いて筆者作成。2019年4月末残高10億円以上のETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

4月は世界景気の減速懸念が後退したことなどから世界的に株式が堅調で、特にハイテク株式が好調であった。4月の高パフォーマンスのファンドをみても上位にテクノロジー系のテーマ型ファンドがきていることからそのことが分かる【図表3：赤字】。資金流出が大きかったテーマ型ファンドも4月は総じて高パフォーマンスであった。元々、それらのファンドは昨年10月から12月にかけて20%前後急落していたが、足元の高パフォーマンスによって多くのファンドが急落以前の水準まで基準価格が回復した。そのため、昨年の急落を受けて塩漬けにしていた投資家にとって4月は格好の売却機会となった。特に昨年10-12月の下落幅が大きかっただけに、利益が出ているうちに整理しようとする投資家が多かったと思われる。

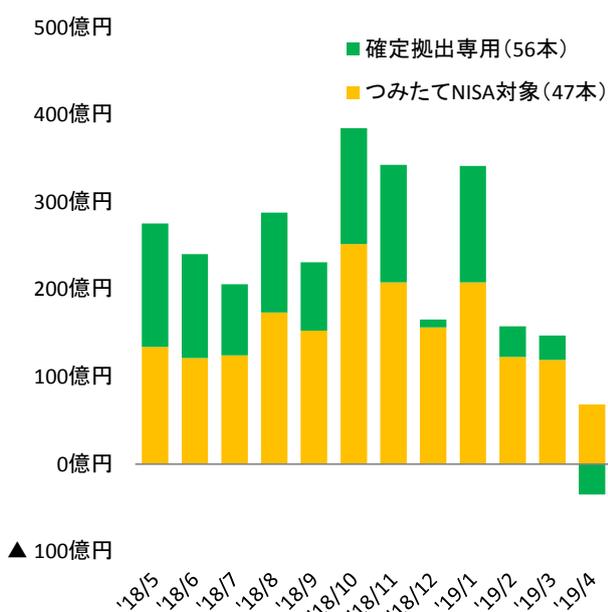
積立投資も変調か

外国株式ではテーマ型ファンドからの大規模な資金流出の影に隠れているが、積立投資している投資家の行動も足元、変調をきたしていた可能性がある。外国株式の確定拠出年金専用ファンドと つみたてNISA対象ファンドの資金動向をみると、2月以降、資金流入が鈍化しているが、4月は一段と鈍化したことが分かる【図表4】。特に、確定拠出年金専用ファンドは資金流出に転じていた。また、バランス型についても、つみたてNISA対象ファンドへの資金流入は急減速し、確定拠出年金専用ファンドは資金流出に転じていた【図表5】。

大型連休に伴い月末の買付けが5月にずれた影響もあると思われる。ただ、それだけでなく確定拠出年金やつみたてNISAを使って外国株式ファンドやバランス型ファンドの積立投資をしている投資家が4月は新規購入を控える、もしくは保有しているファンドの一部を売却したのかもしれない。

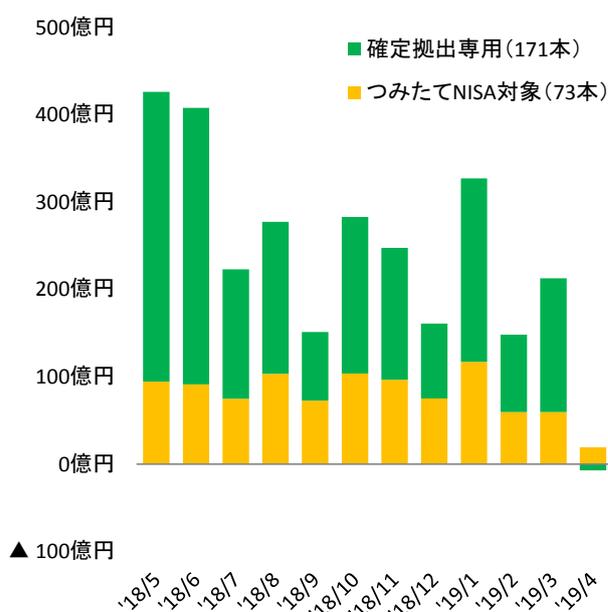
4月は株式市場ではリスク回避姿勢が和らぎ世界的に株価が上昇したが、投信市場ではリスク性資産を売却している傾向がみられ、冷静に行動している投資家が多かったものと推測される。

【図表4】 外国株式ファンドの資金流入



(資料) Morningstar Direct を用いて筆者作成。直近のみ推計。イボットソン分類を用いてファンドを分類。

【図表5】 バランス型ファンドの資金流入



(資料) Morningstar Direct を用いて筆者作成。直近のみ推計。イボットソン分類を用いてファンドを分類。

(ご注意) 当資料のデータは信頼ある情報源から入手、加工したものです。その正確性と完全性を保証するものではありません。当資料の内容について、将来見解を変更することもあります。当資料は情報提供が目的であり、投資信託の勧誘するものではありません。